

施設紹介

ツラッティ千本は、千本地域の歴史や住民参加のまちづくりなどとおして同和問題をはじめ広く人権問題について学んでいただく展示施設として、1994(平成6)年12月1日に開設しました。

千本地域では、部落史研究活動や近隣の小中学校での同和教育実践、さらに1972(昭和47)年から「部落問題を市民ぐるみの課題に」をテーマに始まった「きたけん」など多くの取組がなされてきました。ツラッティ千本では、その取組成果を、地域の歴史やまちの変遷、まちづくり運動の歩みなどの資料展示で紹介しています。

また、研修の実施や様々な人権課題をテーマとした企画展など、人権について学ぶ機会づくりに努めています。

千本地域の歩み

千本地域は、かつて蓮台野村と呼ばれ刑吏等の公役を担っていたほか、雪駄等の履物業などで栄えていましたが、1871年(明治4)年の解放令に伴う公役のはく奪や松方デフレによる深刻な不況により貧困化が進みました。そのような中、村年寄の益井元右衛門とその子・茂平が、被差別身分の廃止を明治政府に訴え、また、楽只小学校の前身となる寺子屋の建設や眼病院を開設するなど、住民の生活向上のために尽力しました。その後、1922(大正11)年の全国水平社創立に際しては、この地に住む南梅吉が初代委員長に選出され、その居宅に総本部が設置されました。

戦後、1950年代後半からは行政による住環境改善事業が本格的に始まり、20年余りで、改良住宅等が建ち並ぶようになりました。そして、1993(平成5)年には、その建て替えを契機に新たなまちづくりを目指して、千本ふるさと共生自治運営委員会(じうん)が発足し、住民自らが基本計画を作り、市内で初めての改良住宅の建て替え事例となる、らくし21(楽只市営住宅第21棟)や、全国初となる定期借地権を利用したコーポラティブ住宅が建設されました。

現在は、地元のNPOや学区社会福祉協議会等により、人権・教育・福祉のまちづくりが進められています。

■所在地 〒603-8302 京都市北区紫野花ノ坊町23-1

■問合せ先 ツラッティ千本 ☎075-493-4539

京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課

☎075-366-0322

■ホームページ 京都市情報館(<http://www.city.kyoto.lg.jp/>)

から「ツラッティ千本」で検索

■開館時間 午前10時～午後4時30分

■閉館日 日曜日、祝・休日、月曜日、

年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料 無料

■交通案内 市バス「千本北大路」バス停下車、すぐ

◆地下鉄北大路駅・北大路バスターミナル(青のりば)から約10分
市バス 1, 101, 102, 204, 205, 206, 北8, M1 号系統

◆地下鉄・JR二条駅から約15分、阪急大宮駅から約20分
市バス 6, 46, 206 号系統

◆京阪出町柳駅から約20分
市バス 1, 102 号系統

◆JR京都駅から約40分
市バス 101(B2のりば), 205(B3のりば), 206(A3のりば) 号系統



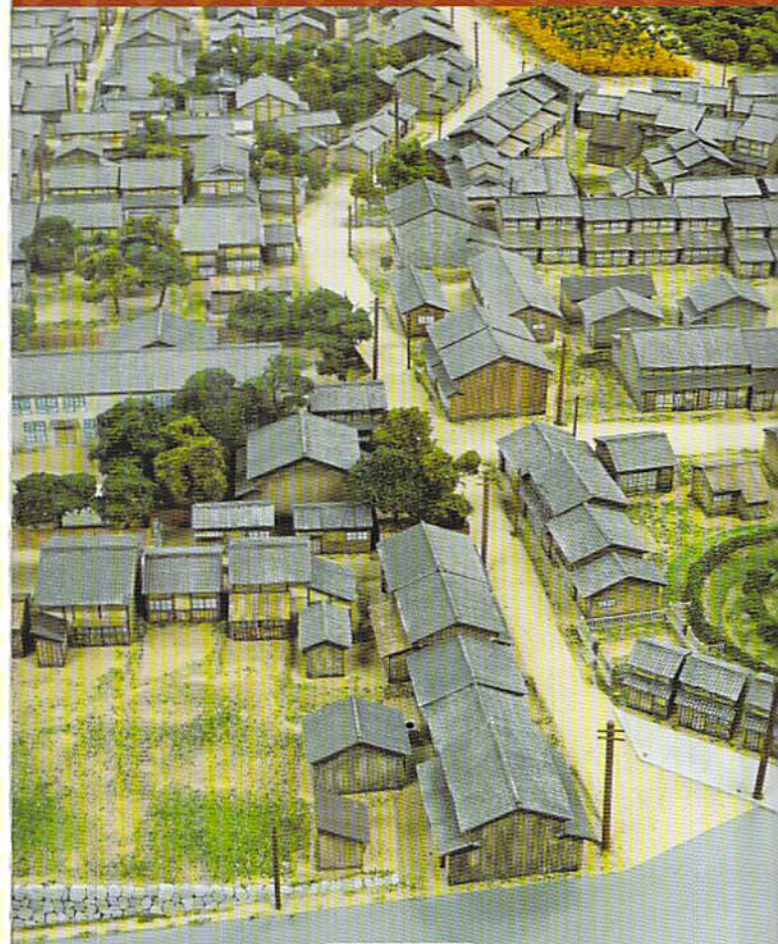
—同じです あなたとわたしの 大切さ—

発行:京都市文化市民局市民生活部人権文化推進課 京都市印刷物 第234863号



ツラッティ千本

京都市人権資料展示施設



京都市

ツラッティ千本

「ツラッティ」の語源

ツラッティ…一緒に連れだつての意。
「連れあつて」の縮約による京ことば。
「家族でツラッティ見学にきとーくれやす」
(家族で連れあつて見学に来てください。)

第4展示室

- ・町並み復元模型(1951年当時)
- ・千本あそびマップ
- ・部落解放研究北区集会(きたけん)の資料等

1階

～ 京都市の都市整備と同和行政の展開 ～

第1展示室

- ・千本地域の移り変わり
- ・町並み模型
- ・古地図等



～ 千本のあゆみⅠ 千本のあけぼのと村の改善事業 ～

第2展示室

- ・千本地域の歴史年表
- ・洛中洛外図屏風高津本(複製)
- ・益井家資料等



2階

第1研修室

・定員40名程度

第2研修室

・定員20名程度

～ 千本のあゆみⅡ 野口村のくらしと全国水平社 ～

第3展示室

- ・野口村役場引継文書
- ・南梅吉と全国水平社
- ・民具類等



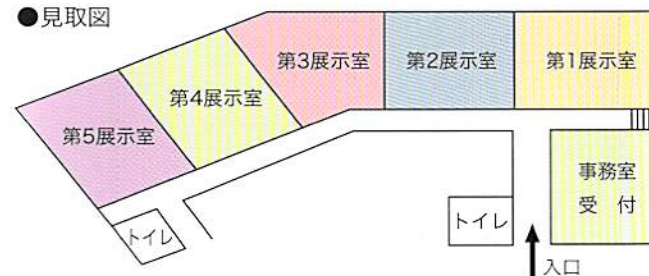
～ 「千本の赤」 ～

第5展示室

- ・絵本「千本の赤」の原画等



●見取図



※展示内容・レイアウト等は変更することがあります。